やる気を結果に直結させる独自の指導スタイル「個別志導」を実践

個別サクセス／愛知県岡崎市　近藤 成人 代表兼塾長

近藤成人 代表

13年前から映像授業を導入した先進的な塾

この個別サクセスが設立されたのは2004年2月。設立後約5年間は企業に勤めながら2足のわらじを履いていたという。

今でこそ塾における映像授業は一般化しつつあるが、設立当初の13年前から映像授業を導入したのは、個別サクセスの大きな特色だ。

「たまたま塾運営をしている仲間に相談すると、『都会ならともかく、こんな田舎で普通に塾を立ち上げても講師なんか集まらないから、これからはやっぱり映像授業だよ』と言われ、よくわからないままスタートさせました。今にして思えば13年前、個別指導というだけで珍しかった三河地域に映像授業を導入している塾は無いに等しかったですね」。

それでも最初の生徒募集で集まった生徒は35名。徐々に生徒は増えていき、教室も4教室を展開し、現在に至っている。指導対象は幼児～高3と幅広い。

生徒が自ら目標や計画を立てる「個別志導」

個別サクセスのパンフレットには「個別志導」とあるように、生徒一人ひとりの「志」を引き出し、「志」をやり遂げるまで導いていくことをミッションとしている。具体的には「自ら考える〝志〟」「高い目標を設定する〝志〟」「困難な目標に挑戦し乗り越える〝志〟」だ。

学習指導は、受け身の授業やつきっきりの個別指導とは違い、生徒自身が自分で科目や学習範囲を決めて授業に取り組む。目標達成のために自分で立てた計画に合わせて実行し、予定をやり抜くことで、達成感を味わいながら着実に結果を出すことができるという。

「よく仕事の上でPDCAサイクルと言いますが、スケジュールのマネジメントが最も重要ですよね。学生なら定期テスト目標／起点として計画・実行できるようにすること。それを小中学生のうちから意識することなくできるようにしたい。そのための道具が勉強なのです」。

強力な講師陣

豊富なコンテンツとスタッフ対応に優れたウイングネット

個別サクセスがウイングネットを導入したのは5年前。導入の決め手になったのは、豊富なコンテンツとウイングネットのスタッフのきめ細やかな対応だという。

「私たちが最も欲しい高校1、2年生の予習、復習、補習向けに作成されているのがとても魅力でした。ウイングネットは当時からそれらを揃えていて、授業・教材含めコンテンツがとても豊富で、単元別に高校生のニーズに応えられることが大きなポイントですね」と近藤代表は言う。

ウイングネットのスタッフの対応の深さは、実は導入後に感じたことで、いい意味で想定外の誤算。改めてウイングネットでよかった、と思っているという。

「初めて大阪でのウイングネット主催セミナーに出席したときです。いつもの担当スタッフに挨拶をするなり、開口一番『△□君、○○大学受験どうでしたか?』と、我が塾の生徒のことを心配しているではないですか! 全国で数多くの塾を担当しているにもかかわらず、大学受験生が1、2人しかいない塾の生徒のことを名前から憶えていて気にかけてくれるんですよ! セミナーではスタッフの皆さん総出で『皆様のために汗をかかせてください』とおっしゃいますが、それがリップサービスではないとわかり、心を突き動かされました」。

さらにこう続ける。

「相手の立場を理解した上で動かれているので、適切なものを用意できるんですね。ときには『先生、それはできません』とか『それよりもこっちの方がいいですよ』など手厳しいことも(笑)。でも、逆にビシッと言ってもらえる方がありがたいと思っています」。

では、実際にウイングネットを使っている生徒の反応は…。

「うちの生徒は中学生のときから映像授業には慣れているので、違和感なく自分の判断でウイングネットを活用しています。定期テストや模試にも着実に影響し成績・結果が出るため、効果を実感しています。また、担当の先生方が映像やメール、時には直接来訪いただきご指導くださるので、生徒たちはとても親近感をもっていますね」と、生徒自身も馴染んでいるそうだ。

ウイングネットで学習する生徒たち

愛知県岡崎市内に4教室を展開している個別サクセスは、今年で設立13年目を迎える。同塾の特色とウイングネットを導入したきっかけと活用方法、今後の塾づくりなどについて近藤成人代表に話をうかがった。

個別サクセス 北岡崎校

さらにウイングネットを活かし、民間学童保育の展開も

今後は高校部以外でもさらにウイングネットを活用していく考えだ。

「ウイングネットの提携塾としてはまだまだヨチヨチ歩きなので、高校部のスタイルをきちんと形づくっていきたいと思います。そして本部の先生方やスタッフと一層親密な連携をとり、本部に代わって提案ができるようになりたいですね」。

ウイングネットでは、特に今年はすべての教科の基本である国語力の強化を提案しているが、そのことにも大いに賛同しているという。

「今後世界レベルで活躍できる人財には国語力、日本力が問われる時代です。国語力をビジネスとして皆様に提供し、使いやすく共感いただけるようなものを今後半年くらいの間にパッケージ化したいと考えています」。

自塾のブランディングとしては、「先鋭的で、少しハイブランドな塾を目指していこうと考えています」とのこと。昨年度過去最高成績を達成した生徒は97%以上、今年度の愛知教育大附属小学校に25名が合格（4人に1人はサクセス生）、同附属岡崎中学校には過去8年間の受験者は100%合格という実績を出している。つまり結果に準え、少しハイブランド化していこうというわけだ。

習字やそろばんなど、いわゆる「学び事」も指導している個別サクセスでは、1～2年後には民間学童保育を展開したいとも考えている。

「学習塾が運営する学舎（まなびや）としての学童保育をやりたいと思っています。学校から塾に来て3～4時間、塾の勉強と学び事のトレーニングを2つか3つ組み合わせて、7時過ぎに保護者に迎えに来てもらって帰るというパターンを考えています」。

完全個別対応 Web授業
ウイングネット
●株式会社 ウイングネット
〒113-0033　東京都文京区本郷5-25-14
TEL.03-3818-8454　wingnet@ichishin.co.jp

個別志導のサクセス

（愛知県）

代表兼塾長

近藤 成人さん

寺に生まれたことが厭だった。
そして教員一家を飛び出し、
自分だけがビジネス界を志した。
しかし、運命は皮肉なものだ。
ビジネスを学べば学ぶほど、
生き方を知れば知るほど、
ここへ還ってくる自分がいた。

ひとことで言い表せない異色の塾

いわゆる「普通の塾」とは何かが違う。FCからスタートしたものの、昨年よりブランドを一新してオリジナル化。小中学部・高校部の学習指導は自立型を中心とし、時間割が存在しない。「学び放題」を標榜し、何度通っても定額料金。宿題も出さない。すべてをここで完結させるシステムで、他塾に通いながら、不明点を質問するためにここへ通塾する生徒もいるほどだ。

さらに、幼児教育～大学受験、英会話・そろばん・習字・速読・パズルまでカバーし、今後は体育コンテンツまで視野に入れているものの、一般的に塾の生命線ともいえる中学生が売り上げ的には最も少ないという。それでも生徒数は4校舎でのべ650名を数え、地域にその存在感を放っている。

なぜ、こんな塾が生まれたのか。

塾長の近藤成人(51)本人も「どんな塾か、なぜそうするのかと聞かれても、ひとことふたことでは説明しにくいです。まあ確かに、塾としてはかなり異色かも、と思います」と笑う。しかし、その根底にはやはり独自の想いと、すべてをここに帰結させる大きな夢があった。

寺、教員一家……その出自にことごとく反発

近藤は、寺の息子として生まれ育った。これといった理由があったわけではないが、生理的にそれが厭で仕方なく、大学で東京に出た。

さらに、両親・祖父、そして妹までもが教育学部を出て公立校の教員を務めるという教育一家だったが、近藤だけが違っていた。教職課程は修めたもののビジネスの世界に興味を持ち、大学院修了後は業界紙の記者に。

記者とはいっても、営業から集金、取材と執筆、その後の校正まですべて自分でこなすという激務の日々。今では笑い話だが、生まれて初めて乗った飛行機がヨーロッパの非英語圏への単独海外出張だった、という逸話まである。言葉もマナーも分からない、公共交通の使い方さえも知らない外国で、しかもビジネス目的というハードな環境だったが、持ち前の行動力でそれを乗り切った。当時出会った現地の人たちは、塾経営者となった四半世紀後の今でも家族ぐるみの付き合いだ。

『サクセスイングリッシュクラブ』では、ネイティブとのダブルティーチング制を敷く

そんな経験が近藤の世界観を広げたのかもしれない。やがて「自分で時間をコントロールできる働き方・生き方をしたい」と、独立開業への志を抱くようになった。しかし「これ！」といったものがない。当初は自己啓発やネットワークビジネスの勉強もしたが、得るものは少なく、代わりに友人を失うだけだった。

当時を振り返り、自嘲ぎみに近藤は言う。「自分のことしか考えてなかったんですよ」。そんな近藤が出逢ったのが、妻が運営していた塾と、私教育の世界である。奇しくも、近藤もまた家族と似た領域へ還ってくることとなったのだ。

ビジネスを学べば学ぶほど、原点に還っていく

もともとビジネス志向の強かった近藤、塾経営に対してもそうだったが、次第に「教育」そのものにも熱い想いを抱くようになる。夢を語り、それを実現に導くタフな日本人を育てたい――自塾に個別「志」導と名付けたのもそんな理念からだ。

そう思えるようになったのは、ドラッカーやアドラーを学んだことも影響しているようだ。彼らのように社会で認知され受け容れられている概念・思想の根底には、共通して仏教的な利他の精神が息づいていることに気づく。ビジネスでの自己実現を目指せば目指すほど、他者への貢献が鍵であることに直面することに…。運命の糸というと大げさだろうか、あれほど避けていた「寺」という存在や思想に紐づけられていったのである。

幼児から高校生まで幅広く受け容れているのは、その貢献意識から自塾をひとつの学びのコミュニティと捉えているからだ。今後はシニアまでをもこの輪に導き、彼らの生きた知恵や哲学を還元したい、と語る近藤。「この縁を連綿とつないで、20年後、30年後には、卒業生たちが教える側に回っているサイクルを完成させたい。それまでは死ねない」と笑った。個別「志」導の志は高い。

（敬称略）

恒例の『そろばん選手権』。教科学習以外のコンテンツが豊富なのもサクセスの特徴だ

利他の心で志を育め 目指すは一大教育コミュニティ

近藤 成人　SHIGETO KONDO

1965年生まれ、愛知県出身。石材業界の専門紙記者を経て、塾の世界へ。父は住職で、家族全員が教員という家庭に育つ。当初はそれを避けていたが、持ち前の強い自己実現志向とビジネスマインドを追求すればするほど、その出自という原点に還っていった。自塾を単なる学習塾の枠でとらえず、幼児からシニアまで、すべてをつなぐ学びコミュニティにするのが夢。

● **WEB サイト**　http://www.success-okazaki.jp/

文／松見敬彦（トリガーワークス）

＼調査は8～9月、男女共同参画社会について全国の18歳以上の5千人を対象に面接で実施。3059（61.2%）から回答を得た。前回2014年調査まで20歳以上が対象だったが、選挙権年齢の引き下げに合わせて下げた。

◆「子どもができても、女性は仕事を続ける方がよい」と考える人の割合が、内閣府の世論調査で初めて半数を超えた。「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」と考える人は逆に減少。担当者は「女性が働くことへの理解が広がってきた」とみている。／